別紙１

６年生指導案から

【指導観】

第一次では、まず、『笑うから楽しい』『時計の時間と心の時間』二つの教材の初発の感想を書かせ、学習課題を設定する。『笑うから楽しい』や『時計の時間と心の時間』の考えを、より実体験とつなげて捉えやすいように「よりよいたてわり班活動へ向けて意見文を書こう」という学習課題を設定する。その際、これまでのたてわり班活動での成果やつまずきを十分ふり返らせたい。また、同じ高学年に協力してもらうために、「意見文を書き、５年生に発信しよう」と、伝える相手を設定することで、目的意識・相手意識をもたせ、　　児童にとって必要性のある学習課題にしたい。

第二次では、まず、二教材の全体構成を理解し、筆者の主張を捉える。構成が類似した二教材を並行して読み取ることで、双括型の構成や事例の挙げ方、文末表現などから筆者の工夫を見つけ、第三次の意見文を分かりやすく書くためのヒントにさせる。次に、「笑うから楽しい」の内容を体験とつなげながら読み取り、自分の考えをまとめさせる。一人学びでは、たてわり班活動からの事例を赤、それ以外の実体験からの事例を緑、本やインターネット等で調べた事を青の付箋で整理させておく。それをもとにみんな学びでは、「本文のどの部分からどのように思ったのか、その根拠（実体験など）、自分の考え」などを伝え合うことで、筆者の「体の動きも心の動きに働きかける」という主張に迫らせたい。付箋に用意した意見を発表するだけでなく、その場で出た意見に対して思ったことや感じたことも伝えられるように意識させたい。『時計の時間と心の時間』では、『笑うから楽しい』で学んだ事を生かし、同じ手順で読み取りながら、筆者の「心の時間に目を向けることが、時間と付き合っていくうえでとても重要である」という主張に迫らせたい。また、随時たてわり班での対話活動を取り入れ、筆者の考えをもとに自分はどう考えているのかを話し合わせることで、意見文に書く内容を整理させていきたい。

第三次では、まず、第二次で学んだ双括型や具体的事例の挙げ方などを取り入れ、自分の意見文を書かせる。５年生にも意見文の内容を納得してもらえるように、筆者の考えに共感した叙述を引用したり、これまでのたてわり班活動での具体的事例を取り挙げたりしながら書かせたい。また、意見文は６００～８００字と限定することで、考えや事例を端的にまとめる力も付けさせたい。書いたものは、たてわり班のメンバーで読み合い、５年生が納得できるような具体的事例が効果的に挙げられているか、自分の考えと事例を区別して書けているか、などに着目しながら推敲させたい。次に、たてわり班毎に分かれ、自分の書いた意見文をもとに５年生と交流する。よりよいたてわり班活動にするための考えを伝えたり５年生から感想を聞いたりする対話活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりさせたい。また、学習後のたてわり班活動がどのように変革したかをふり返ることで、自分の意見を発信していくことの大切さを実感させたい。

【指導案　第２次　第３時】

（１）目標　筆者の考えや挙げられた事例について意見をもち、体験とつなげて伝え合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

（２）展開

	学　習　活　動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
目的をもつ	１．本時の課題を確認する。 筆者の考えと自分の体験をつなげて読み取り、考えをもとう。	・よりよいたてわり班活動を目指して意見文を書くために、体験とつなげて内容を読み取り、自分の考えをもつ時間であることを確認させる。
学ぶ・深める	２．筆者の考えや事例に対する自分の考えを伝え合う。 「笑うから楽しい」文章構成 ①話題考え　・私たちの体の動きと心の動きは、密接に関係している。 ・からだを動かすことで、心を動かすこともできる。 ②事例１　・私たちの脳は、体の動きを読み取って、それに合わせた心の動きを呼び起こすこと。 ③事例２　・表情が変わる。 ④まとめ・考え　・私たちの体と心は、深く関わり合っている。心の動きが体に表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける。 呼びかけ　・何かいやなことがあったときは、鏡の前でにっこりえがおを作ってみるのもよいかもしれない。 ⇩ 実体験をふまえた発表例 たてわり（赤）　・下級生は楽しい（ルールが分かる）ときは笑い、つまらない（ルールが分からない）ときは暗い表情をしていた。分かりやすい遊びができるように事前の準備が必要だ。 ・自分が暗い顔をしていても、周りは笑ってくれない。どんな時も、６年生から笑って、楽しい雰囲気を作ることが大切だ。 その他の体験（緑）　・「大きな声であいさつしたら」「元気が出た」だしかに、「体を動かすことでからを動かす」こともあるので、たてわり班活動も前向きに取り組んで楽しくしていこうと思った。 ・「対級リレー」のとき、大きく深呼吸をしたら緊張せず、「しっかり」と走れた。たてわり班活動の時も、笑顔や深呼吸で血液の温度を冷やし、楽しい気持ちになっていこうと思う。 調べたこと（青）　・「笑う」ことで、健康になれたりメドレスを解消したり、苦せにもなれたりするらしい。たてわり班活動でもみんながいっぱい笑えるように、自分から笑っていこうと思った。 ・「病は気から」ということわざがある。その人の心のもち方しだいで軽くもなるし、また重くもなるということ。たてわり班の遊びでも、明るく前向きに遊んでいろうちに楽しくなれると思う。	・事前に一人学びで書いてきた付箋を参考に、本文のどの部分からどのように思ったのか、その根拠（実体験など）、よりよいたてわり班活動にするための考えを発表させる。 ・友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりできたところは、付箋に書き足させる。 ・付箋に用意した意見を発表するだけではなく、その場で出た意見に対して思ったことや感じたことも、前の発表者や全体に伝えられるように意識させたい。 ・第２、３段落で挙げられている２つの事例の内容を確認することで、筆者の主張に説得力をもたせていることに気付かせる。 ・体の動きが先か（笑うから楽しい）、心の動きが先か（楽しいから笑う）、全体で迷ったり意見が分かれたりするような場面があった際は、ペア対話をさせて考えをさらに広げたり深めたりさせる。 ・筆者は、なぜ「鏡の前でえがおを作ってみるのもよい」と読者に呼びかけているのか、実体験とつなげて考えることで、「体を動かすことで心も動く」という意味を理解させる。 ・各段落の役割や関係を確かめながら筆者の意図を理解させ、「時計の時間と心の時間」の学習につながるようにする。
生かす・ふり返る	３．本時をふり返り、考えを整理する。 ４．次時の課題を知る。	・本時の学習から考えた「たてわり班活動をよりよくするために、５年生に主張したいこと」をまとめ、たてわり班毎にグループ対話をすることで、考えを整理させたい。 ◎考えたことを発表し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。 ・次時では、「時計の時間と心の時間」を読んで意見をもったことを発表し合うことで、自分の考えをさらに深めていくことを知らせる。

【指導案　第２次　第４時】

（１）目標　筆者の考えや挙げられた事例について意見をもち、体験とつなげて伝え合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

（２）展開

	学　習　活　動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
目的をもつ	１．本時の課題を確認する。 筆者の考えと自分の体験をつなげて読み取り、考えをもとう。	・よりよいたてわり班活動を目指して意見文を書くために、体験とつなげて内容を読み取り、自分の考えをもつ時間であることを確認させる。
学ぶ・深める	２．筆者の考えや事例に対する自分の考えを伝え合う。 <時計の時間と心の時間>　文章構成 話題考え　・私たちは「時計の時間」と「心の時間」共に生きている。「心の時間」に目を向けることが、時間と付き合っていく上で重要。 事例１　・その時行っていることをどう感じているかによって「心の時間」の進み方が変わる。 事例２　・一日の時間帯によっても変わる。 事例３　・身の回りの環境によっても変わる。 事例４　・人によっても感覚がことなる。 まとめ考え　・生活の中で「心の時間」に目を向けることは大切。人によって「心の時間」の感覚が違うことを知っていれば、互いに気づかいながら進められる。 ・「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うことが必要。 ⇩ ○たてわり班の事例　◇それ以外の実体験　●反論　発表例 事例１　◇ゲームをしている時はあっという間、苦手な勉強の時は長く感じる。 ○「だるまさんが転んだ」をした時はみんなが楽しそうで、時間が早く過ぎた。 事例２　◇朝は特に用意に時間がかかる。 事例３　◇参観日大勢に見られていると長く感じた。 ●周りの環境は気にならない。 事例４　○たてわり班遊びでなかなかみんなが集まらず始まらなかった。 ○早口で説明したら１年生は分かっていなかった。人によってペースが違うんだ。 まとめ考え　○みんなが楽しいと感じる遊びを選ぶ。 ○周りの刺激を減らすために範囲を決める。 ○一人一人の感覚の違いを認め、余裕をもって計画を立てたり、互いに気遣いながら活動したりする。	・必要に応じてすぐに意見交換ができように、座席をたてわり班毎にしておく。 ・筆者の考えを正確に捉えるために「時計の時間」と「心の時間」違いを確認する。 ・筆者の考えや挙げられた事例について、①どのように思ったか（共感したところや納得のできないところ）②その理由を、具体的に実体験から発表させる。 ・たてわり班活動の反省点が出た際、「うまくいかなかったのはなぜだろう。」と問うことで、原因が心の持ち方や時間の意識に関わることではなかったかを考えさせたい。 ・友達の意見を聞いて共感できたところやつなげて考えられたところは、付箋に書き足させる。 ・「時間がかかる・時間の感じ方が違うのは、低学年だからという理由だけなのか。６年生どうしなら時間に関する感覚は同じなのか」と問うことで、「心の時間」は同級生であっても一人一人感覚が異なる、だからこそ人のことを考えて言動することが大切だということに気づかせたい。 ↓ ・人によって時間の感じ方が違うことを体感するために、目を閉じて３０秒を計らせる。 ・筆者の考えから離れないように、「いつも正確に『時計の時間』どおりに作業し続けたり、複数の人が長い時間、同じペースで作業を進めたりすることはとても難しい。」など本文に着目させる。 ・本時の授業をもとに「よりよいたてわり班活動にするための自分の考え」を、黄の付箋にまとめさせる。たてわり班毎に対話させ、自分の考えを分かりやすく伝え合うことで、５年生に対する意見文の内容を具体化し、整理させたい。 ◎筆者の考えや挙げられた事例について自分の考えをもち、体験とつなげて伝え合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。
生かす・ふり返る	３．本時をふり返る。 ４．次時の課題を知る。	・次時は、これまでの学習をもとに、意見文を書くことを知らせる。